

## 株主メモ

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで  
 定時株主総会 毎年6月  
 定時株主総会の議決権の基準日 毎年3月31日  
 剰余金の配当の基準日 期末配当 3月31日  
 中間配当 9月30日

単元株式数 100株  
 株主名簿管理人 東京都中央区八重洲一丁目2番1号  
 みずほ信託銀行株式会社  
 同事務取扱場所 東京都中央区八重洲一丁目2番1号  
 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部  
 〒135-8722  
 東京都江東区佐賀一丁目17番7号  
 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部  
 フリーダイヤル (0120) 288-324

同取次所 みずほ信託銀行株式会社 全国各支店  
 みずほインベスターズ証券株式会社  
 本店および全国各支店

公告方法 電子公告の方法により行う。  
 (公告掲載URL <http://www.okayaelec.co.jp>)  
 ただし、事故その他やむを得ない事由によつて電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行う。

## 株主優待のお知らせ

株主の皆様の日頃のご支援に感謝し、当社株式への投資の魅力高め、個人株主層のさらなる拡大ならびに中長期的に株式を保有していただき、より一層のご支援をいただきたく、毎年3月末の当社株主名簿および実質株主名簿に記載された株主様を対象として株主優待をいたします。

### 《優待内容》

100株以上	500株未満	おこめギフト券	2kg
500株以上	1,000株未満	おこめギフト券	5kg
1,000株以上		おこめギフト券	10kg



100株以上を **3年以上** 継続保有の株主様には

おこめギフト券  
1kg プラス

\*3月末において、連続4回以上株主名簿に同一株主番号として、記載されている株主様。



## 100株未満の単元未満株式をお持ちの株主様へ

当社では、単元未満株式の買増制度および買取制度を実施しております。100株未満の株式をお持ちの方は、ぜひご利用ください。

### 登録株式、単元未満株券の場合

増やしたい場合→買増請求書  
 処分したい場合→買取請求書



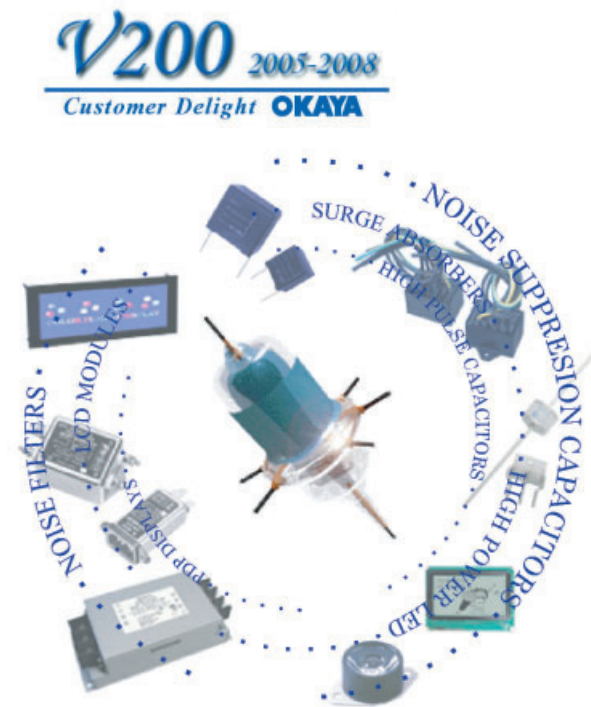
### お問い合わせ先

みずほ信託銀行株式会社 証券代行部  
 0120-288-324 (フリーダイヤル)  
<http://www.mizuho-tb.co.jp/daikou/tetsuduki/>

証券会社の保護預かり口座に  
単元未満株式を保有されている場合



お取り引きの証券会社に  
直接お問い合わせ下さい。



# 第85期 事業報告書

平成19年4月1日～平成20年3月31日

**OKAYA** 岡谷電機産業株式会社  
<http://www.okayaelec.co.jp>



## 株式の状況

(平成20年3月31日現在)

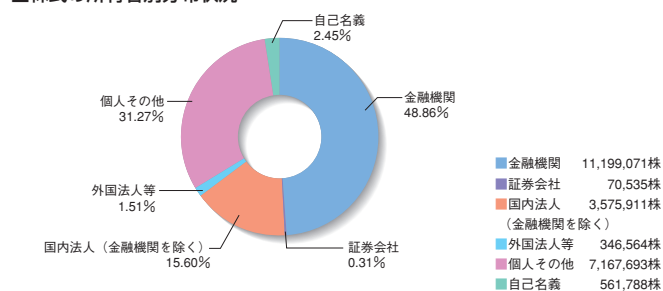
発行可能株式総数	90,000,000株
発行済株式の総数	22,921,562株
株主数	5,201名

### 大株主

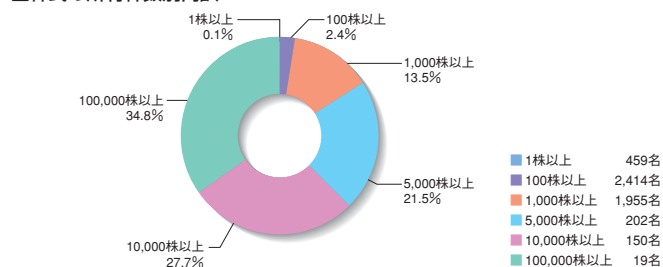
株主名	所有株式数	持株比率
みずほ信託退職給付信託(沖電気工業口)	3,602千株	15.71%
明治安田生命保険相互会社	2,066	9.01
株式会社みずほ銀行	1,082	4.72
昭栄株式会社	1,040	4.53
日本スタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	975	4.25
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	884	3.86
株式会社損害保険ジャパン	813	3.54
安田不動産株式会社	638	2.78
資産管理サービス信託銀行株式会社(年金特金口)	476	2.08
みずほ信託銀行株式会社	465	2.02

(注)上記のほか自己名義株式が561千株(2.45%)あります。

### 株式の所有者別分布状況



### 株式の所有株数別内訳



## 会社概要

(平成20年6月24日現在)

創立	昭和21年6月1日
資本金	2,295,169千円

### 営業所および技術センター

本営業本部	東京都世田谷区
東北営業所	東京都世田谷区
長野営業所	福島県安達郡大玉村
名古屋営業所	長野県岡谷市
大阪営業所	名古屋市東区
福岡営業所	大阪市福島区
埼玉技術センター	福岡市博多区
長野技術センター	埼玉県行田市
	長野県岡谷市

### グループ関係会社

東北オカヤ株式会社	O S D 株式会社
岡谷香港有限公司	オカヤランカ PVT LTD.
岡谷香港貿易有限公司	オカヤ エレクトリック
オカヤ エレクトリック	アメリカ インク
シンガポール PTE LTD.	

### 役員

(平成20年6月24日現在)

代表取締役会長 最高経営責任者(CEO)	丸山律夫
代表取締役社長 最高執行責任者(COO)	山岸久芳
取締役役員 専務執行役員	松岡郁男
取締役役員 常務執行役員	一瀬和好
取締役役員 執行役員	青木正光
取締役	木代俊彦 (社外取締役)
常務執行役員 執行役員	西田信之
執行役員	原口廣之
執行役員	加茂野明卓
執行役員	山田尚人
常勤監査役	江本明弘 (社外監査役)
監査役	鈴木英夫
監査役	小川正明 (社外監査役)



## 株主の皆様へ



取締役会長 **丸山律夫**  
 取締役社長 **山岸久芳**

株主の皆様には、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

第85期事業報告書をお届けするにあたり、株主の皆様をはじめ、関係各位のご支援に心より厚くお礼申し上げます。

当連結会計年度における我が国経済は、上期においては底堅く推移し、緩やかに拡大が続いていましたが、サブプライム問題を機に鉄鋼、輸送機器、運輸、素材などの業種では不透明感が見え始めました。岡谷グループの市場におきましては、薄型TV、家庭用ゲーム機、IH調理機器の需要が活況を呈し、また電気機器業界におけるインバータの普及にとともに、回路周辺に高調波対策をはじめとする各種需要が活発に推移しております。しかしながら、下期に入り、産業機器の分野にかげりが見えてきたこと、ライバル企業の増加等競争環境が激化し、事業環境がより厳しいものとなってき

ました。

為替レートについては、期初より乱高下を繰り返しておりましたが、第4四半期に入り、大幅に円高に振れ、売上高および外貨建て資産価値を低減させる結果となりました。

この結果、当社グループの業績は、売上高159億72百万円(前期比100.5%)、営業利益15億92百万円(同92.7%)、経常利益14億58百万円(同81.4%)、当期純利益9億円(同77.2%)となりました。一方、単独業績も売上高140億21百万円(同98.5%)、営業利益10億85百万円(同100.1%)、経常利益10億12百万円(同82.5%)、当期純利益6億32百万円(同82.5%)となりました。

この業績を受けまして、当期につきましては1株につき6円の間配当を既にお支払いしておりますので、これを合わせた年間配当金は1株あたり13円の配当をさせていただきますことになりましたのでご報告申し上げます。

また今年4月1日より、中長期の経営戦略と執行部門の監視をおこなうため、丸山律夫が代表取締役会長兼最高経営責任者(CEO)に就任し、執行部は、山岸久芳が代表取締役社長兼最高執行責任者(COO)に就任して、株主の皆様の期待に応えられる会社づくりを目指してまいります。

株主の皆様におかれましては、今後とも格別のご支援ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

平成20年6月

## 会長がTV出演

今年度、テレビ東京の「株式ワイド オープニングベル」の特集「雷サージ対策市場その将来性」(8月14日放映)、特集「隠れた成長市場ノイズ対策製品」(2月26日放映)、特集「セクター分析コンデンサ業界」(4月3日放映)の3回TV放映されました。また、4月4日には「ザ・トップライン」で丸山会長が生出演し、当社の製品紹介と経営戦略を話しました。経歴紹介時はだいぶ硬さがみられましたが、後半は笑顔も戻り、当社の強みや今後の事業戦略を十分アピールすることができました。

個人投資家向け説明会も5回行うことができ、より多くの個人投資家様にOKAYAを知ってもらうことができたと考えております。また、今年度は、単元の見直し、

株主優待の実施も功を奏し株主数も5千名を上回ることができました。今後も継続的な実施、参加しやすい説明会等、直接経営者の話をお聞きいただく場を数多く提供していきたいと考えております。

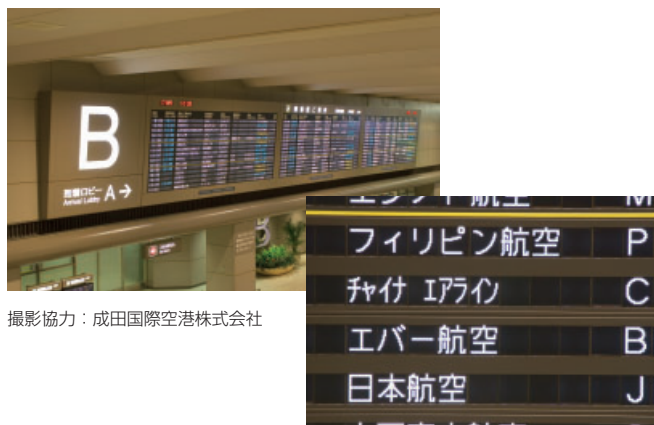


## フィールドシーケンシャル液晶 (FS-LCD) 事業を譲受

平成19年12月にFS-LCDの事業を株式会社HDTから譲り受けました。

FS-LCDは、モノクロ(白黒)液晶パネルを使い、カラー化を実現させる技術で、安価に多色化が可能となります。用途は、空港や駅構内のインフォメーション文字表示器への展開を考えており、実績としては、成田国際空港第2ターミナル到着ロビー(写真参照)や岡崎消防局にて稼働しております。中国の北京天津間高速鉄道の駅構内表示器の受注も受けております。

今後は、国内ゼネコンとともに中国の中小空港や鉄道等の交通施設への売り込みを強化してまいります。



撮影協力：成田国際空港株式会社

## 海外第2工場立ち上げ急ピッチ

昨今の中国の人件費の高騰には目を見張るところがあり、カントリー・リスクを回避する目的もあり、海外第2工場の立ち上げを検討してまいりました。また、今年度の海外でのコンデンサ受注は予想をはるかに上回り、中国の東莞工場では、24時間フル稼働をしてもこなせない受注量になっております。このような状況を踏まえ、早急な工場の立ち上げや、今後の販売地域戦略

も踏まえた適地の決定が重要課題でありました。結果、インドの近隣であるスリランカに既存工場および内装設備も含めた好条件の物件が見つかりましたので、4月1日付けで子会社「オカヤランカ」を設立し、量産品工場の立ち上げに取り掛かりました。生産設備は、先行手配していたこともあり、工場の稼働開始を7月と決め従業員の雇用、ラインの構築に取り掛かっております。

1) 商号	OKAYA LANKA(PVT) LTD.
2) 所在地	Spur Road 4, Phase I E.P.Z. Katunayake 11450, Sri Lanka
3) 設立年月日	2008年4月1日
4) 事業内容	コンデンサの製造販売
5) 生産開始予定	2008年7月(予定)
6) 資本金	2億5千万スリランカルピー(2億5千万円)
7) 株主	岡谷電機産業株式会社 100%
8) 従業員数	800名(2011年度予定)
9) 投資額	19億50百万円(3年間予定)







## 部門別の概況

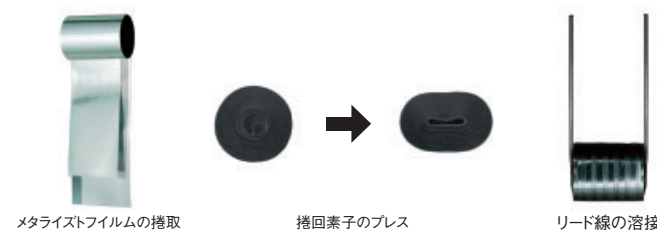
### ノイズ関連製品

電源（100V）を通して流入流出する**電磁雑音（ノイズ）**を対策し、機器の誤動作を護る**雑防用コンデンサ**とそのコンデンサを利用した**ノイズフィルタ**が主力製品となる。

以前はオーディオ用・通信用コンデンサも製造していましたが、20年前から雑防用コンデンサに特化しております。

コンデンサに求められる安全性の市場要求は極めて厳しいものであり、それに必要とされる設計、製造の条件等が、「安全規格」として、世界の主要な国々でその国の実情に合わせ細かく制定されてお

ます。OKAYAはその主要安全規格をすべて満足するグローバル企業であり、近年はRoHS指令と言う、環境負荷物質を使用しない、環境にやさしい製品づくりが義務づけられ、より一層の技術開発、品質管理が要求されております。当社製品はこれら要求を満足し、体積でも発売当初から65%の小型化を達成しており、今後も業界最小を目指してまいります。



メタライストフィルムの巻取      捲回素子のプレス      リード線の溶接



ケース入れ・樹脂挿入      高圧解熱      樹脂（リゾグロ）      銅線（リード線）      ノイズコンデンサ

近年、省エネが騒がれ、エアコンや蛍光灯等家電製品にインバータ回路が組み込まれてまいりました。インバータより高調波ノイズが発生し、それを抑えるための回路に当社の雑防用コンデンサが使われており、EU向け製品を筆頭に好調な受注を頂いてお

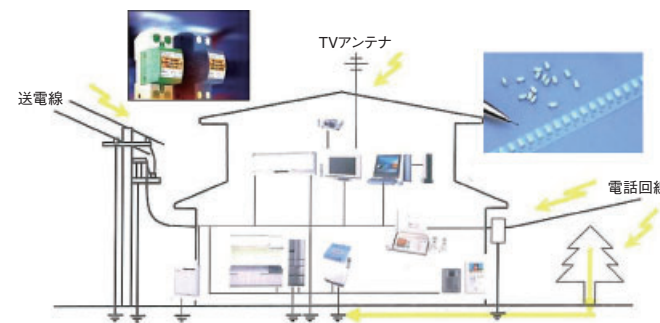
ります。この分野では業界2位であり、電化製品においては無くてはならない部分であるため、今後も期待のできる分野であります。

### サージ関連製品

サージは電気回路や電気系統に通常の電圧を超えて、**瞬間的あるいは、断続的に発生する過電圧**のこと。このサージ電圧によって、電気機器は絶縁破壊や機能停止、劣化などの影響を受ける。特に雷サージから機器を故障や誤作動から護る。

近年の電子機器は、多機能化・高性能化が進み、製品の小型・省電力が進展して動作電圧の低電圧化により雷や静電気などのサージに対して影響を受けやすくなっております。これらデジタル機器は、AC電源線、通信線（電話回線等）、アンテナ線等を進入経路とする誘導雷サージによる被害が年々増大し

ております。当社は、真空管製造から始まり長年蓄積した独自の真空・放電技術により、新JISに対応したガス放電管サージアブソーバ（SPD）の製品群を取り揃え、“部品からビルまで”様々なシーンに適した製品を提案しております。



近年は、ブロードバンドネットワークやCATV、BS/CS、フラットTV等のアンテナ、信号入力部での保護回路での需要が高まり、従来は、ガラス管およびセラミック管型にガスを注入したものであった

が、近年は小スペース化が進み、自動挿入によるチップ部品の表面実装可能なサージアブソーバの需要が増加しております。

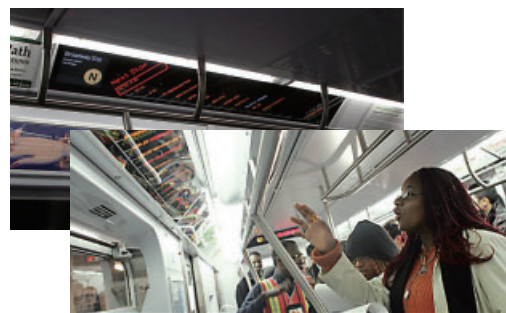




## 部門別の概況

### 表示関連製品

情報を人間が認識できる色や文字に変換する、表示部品および機器のことであり、**必要な情報を表示する手段**である。



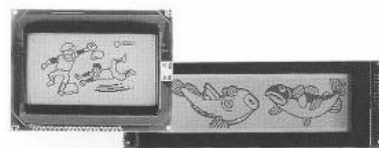
車載LED表示器



BO-JO-LED  
LED  
光源  
安全・安心なLED光源



PDP表示器



液晶 (LCD) 表示器



FPF8060HRUK



FPF6422MRCA

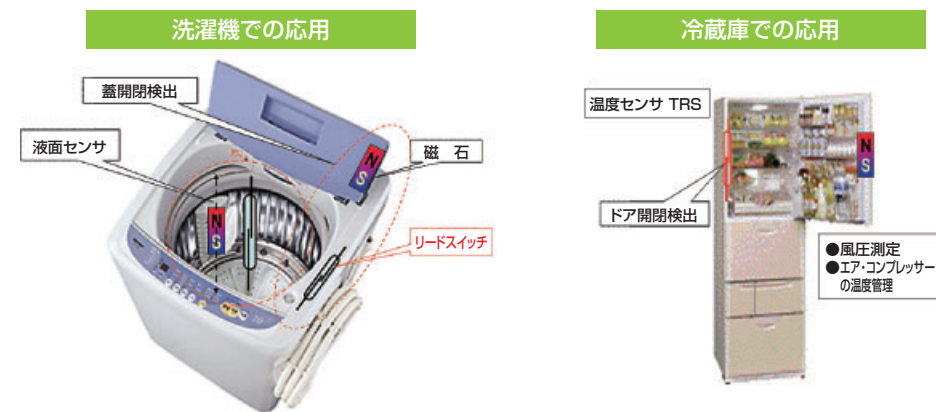
OKAYAは、顧客ニーズに応えられるようLED、プラズマ (PDP)、液晶 (LCD) と多様な発光素子を扱っております。なかでもLED表示装置は、海外で地下鉄車両に搭載された実績もあります。また、特種照明分野にも進出するべく「BO-JO-光源」の開発も終了し、陳列棚や工作機械照明分野に販売活

動をはじめました。また、モノクロ液晶分野では、国内の主要メーカーが減少していることもあり、カスタマイズ受注が増加しております。量産品は海外シフトしており、国内生産品の受注量は少ないもののカスタム性が強いので、今後も期待ができる分野であります。

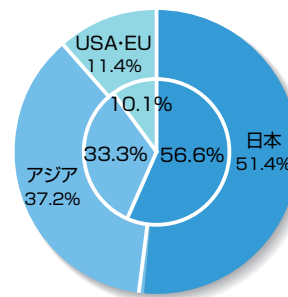
### センサー関連製品

電子機器が外の状態を知るための、**知覚素子**である。

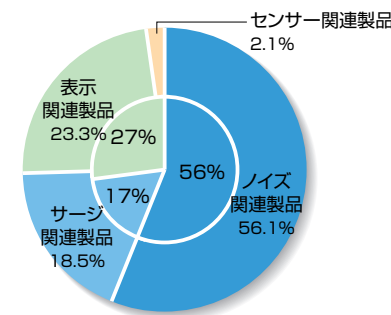
現在、リードスイッチや近接スイッチなどを製作しております。これらのセンサーは、家電製品や銀行ATMの紙幣検知などに使用されており、また、赤外LEDを使用した応用製品の受注も入っております。この分野の売上げはこれからですが、第4の柱となるよう研究開発に取り組んでおります。



地域別売上高構成比率  
(内枠は前期)



部門別売上高構成比率  
(内枠は前期)





# 決算概要

## 貸借対照表（連結）

(単位：千円 千円未満切り捨て)

科目	前期	当期
	平成19年3月31日現在	平成20年3月31日現在
<b>資産の部</b>		
流動資産	7,106,357	6,365,919
現金及び預金	697,082	913,366
受取手形及び売掛金	4,059,447	3,623,803
たな卸資産	1,871,373	1,325,778
その他	478,454	502,970
固定資産	6,282,436	6,255,291
有形固定資産	3,296,650	3,297,628
無形固定資産	23,547	124,824
投資その他の資産	2,962,238	2,832,838
<b>資産合計</b>	<b>13,388,794</b>	<b>12,621,210</b>
<b>負債の部</b>		
流動負債	4,475,401	3,529,706
支払手形及び買掛金	1,385,008	1,467,612
短期借入金	1,811,058	1,044,578
未払法人税等	375,143	133,054
その他	904,189	884,461
固定負債	1,192,159	1,308,330
長期借入金	278,750	419,800
再評価に係る繰延税金負債	290,809	290,809
その他	622,599	597,720
<b>負債合計</b>	<b>5,667,560</b>	<b>4,838,037</b>
<b>純資産の部</b>		
株主資本	6,813,720	7,306,351
資本金	2,295,169	2,295,169
資本剰余金	1,860,426	1,860,830
利益剰余金	2,770,426	3,268,643
自己株式	△ 112,302	△ 118,292
評価・換算差額等	907,512	476,821
<b>純資産合計</b>	<b>7,721,233</b>	<b>7,783,173</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>13,388,794</b>	<b>12,621,210</b>

## 損益計算書（連結）

(単位：千円 千円未満切り捨て)

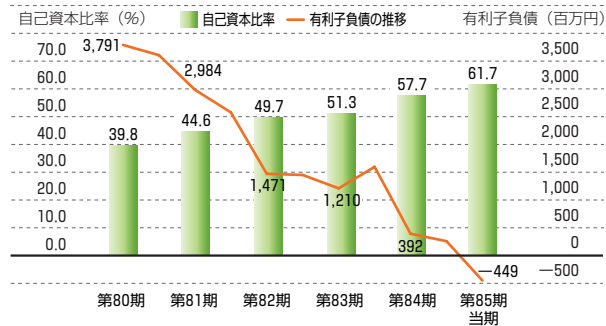
科目	前期	当期
	(平成18年4月1日から平成19年3月31日まで)	(平成19年4月1日から平成20年3月31日まで)
売上高	15,885,272	15,972,547
売上原価	11,634,407	11,860,855
販売費及び一般管理費	2,532,432	2,518,750
<b>営業利益</b>	<b>1,718,432</b>	<b>1,592,941</b>
営業外収益	163,292	110,073
営業外費用	89,252	244,388
<b>経常利益</b>	<b>1,792,472</b>	<b>1,458,626</b>
特別利益	29,585	57,409
特別損失	10,278	25,089
<b>税金等調整前当期純利益</b>	<b>1,811,779</b>	<b>1,490,947</b>
法人税、住民税及び事業税	671,817	470,834
法人税等調整額	△ 26,733	119,330
<b>当期純利益</b>	<b>1,166,695</b>	<b>900,781</b>

## キャッシュ・フロー計算書（連結）

(単位：千円 千円未満切り捨て)

科目	前期	当期
	(平成18年4月1日から平成19年3月31日まで)	(平成19年4月1日から平成20年3月31日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,503,986	1,904,367
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 425,663	△ 635,729
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 491,453	△ 1,030,243
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 33,364	△ 22,109
現金及び現金同等物の増減額	553,505	216,284
現金及び現金同等物の期首残高	143,576	697,082
現金及び現金同等物の期末残高	697,082	913,366

## 自己資本比率・有利子負債の推移



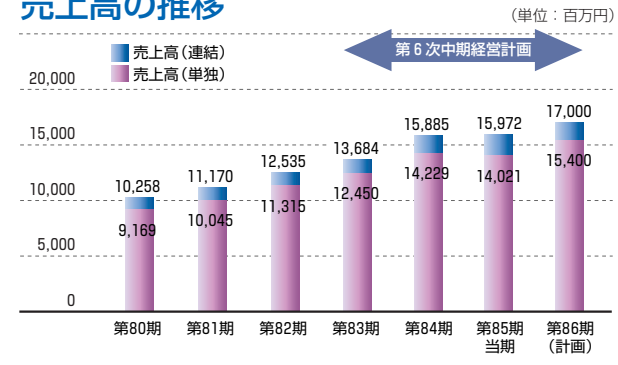
## 株主資本等変動計算書（連結）

当連結会計年度（平成19年4月1日から平成20年3月31日まで）

(単位：百万円 百万円未満切り捨て)

	株主資本					評価・換算差額等				純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	土地再評価差額金	為替換算調整勘定	評価・換算差額等合計	
平成19年3月31日残高	2,295	1,860	2,770	△ 112	6,813	507	428	△ 28	907	7,721
<b>連結会計年度中の変動額</b>										
剰余金の配当			△ 402		△ 402					△ 402
当期純利益			900		900					900
自己株式の取得				△ 6	△ 6					△ 6
自己株式の処分		0		0	0					0
株主資本以外の項目の連結会計年度中の変動額（純額）						△ 104		△ 326	△ 430	△ 430
<b>連結会計年度中の変動額合計</b>		0	498	△ 5	492	△ 104		△ 326	△ 430	61
平成20年3月31日残高	2,295	1,860	3,268	△ 118	7,306	403	428	△ 355	476	7,783

## 売上高の推移



## 経常利益・当期純利益の推移

